

保護者のみなさまへ

～「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果について～

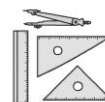
河内長野市立西中学校

《基本的な考え方》

本調査については、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」と文部科学省の目的にあります。これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

○子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることで、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。

○学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。



《調査結果の取り扱い》

今年度も全国学力・学習状況調査の結果と分析を提供いたします。

◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張っ克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いいたします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。



学力調査の概要

国語

概況

学習指導要領における領域の平均正答率が府比、全国比ともに話すこと・聞くこと、読むことにおいて下回っていたが、書くことにおいて平均正答率は府比、全国比ともに上回っていた。

特に成果が見られた問題例

1四 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。全国比+4.0ポイント 府比+8.4ポイント

3一 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。全国比+7.2ポイント 府比+6.8ポイント

3二 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。
全国比+13.8ポイント 府比+10.1ポイント

課題が見られた問題例

2二 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる。全国比-16.8ポイント 府比-13.2ポイント

2四 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる。全国比-11.7ポイント 府比-7.7ポイント

数学

概況

学習指導要領における4領域で、府比・全国比ともに上まわった領域は『数と式(府比+8.3ポイント 全国比+8.5ポイント)』、『関数(府比+1.9ポイント 全国比+0.2ポイント)』であり、おおむね理解できているといえる。

一方、府比・全国比ともに下まわった領域は、『図形(府比-2.6ポイント 全国比-2.4ポイント)』、『データの活用(府比-3.3ポイント 全国比-6.8ポイント)』という結果であり、課題が見える。

評価の観点から見た場合については、府比・全国比に対して『知識・技能(府比+3.0ポイント 全国比+2.4ポイント)』、『思考・判断・表現(府比+0.4ポイント 全国比-1.6ポイント)』という結果であり、基礎・基本の定着は見られるが、それを活用して、考えを記述することが課題と言える。

特に成果が見られた問題例

6(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる
府比+11.6ポイント 全国比+10.4ポイント

6(3) 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる
府比+8.1ポイント 全国比+7.2ポイント

課題が見られた問題例

7(2) 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる 府比 -12.8ポイント 全国比 -18.2ポイント

概況

学習指導要領における領域（聞くこと・読むこと・書くこと）の平均正答率が、府平均：-1ポイント、全国平均：-1.6ポイントと、共に下回る結果となったが、話すこと（やりとり）では全国比+2.5で上回る結果となった。

5領域の中では特に「聞くこと」への課題が明確となった。

特に成果が見られた問題例

4 社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかをみる

全国比+4.8ポイント 府比+6.7ポイント

7(1) 文と文との関係を正確に読み取ることができるかをみる

全国比+5.9ポイント 府比+5.6ポイント

8(1) 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかをみる

全国比+7.4ポイント 府比+9.3ポイント

8(2) 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる

全国比+5.5ポイント 府比+4.2ポイント

1(4) 日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかをみる（話すこと：やりとり）

全国比+18.1

課題が見られた問題例

7(2) 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかをみる

全国比/府比共に-5.9ポイント

10 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかをみる

全国比-5.5ポイント 府比-6.4ポイント

2 社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる（話すこと：発表）

全国比-4.2ポイント

学習状況調査の概要

・「朝食を毎日食べていますか」(84.6%)、「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」(80.8%)や「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」(90.4%)の問いの肯定的な回答の結果は、国や府の平均と同程度の水準で、基本的な生活習慣が確立されていることがわかる。

・「自分には良いところがあるか」の問いの肯定的回答は65.4%でおよそ3分の1の生徒が自分の良さを感じられていない。

・「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」(90.4%)「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるように教えてくれていると思いますか」(94.2%)の問いではいずれも肯定的な回答が90%を超えており学習における生徒と教員の信頼関係が築かれていることがわかる。一方、「困りごとや不満がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いの肯定的な回答は53.9%で、生活においては心理的な距離があるといえる。

・「将来の夢や目標を持っていますか」の問いへの肯定的な回答は67.3%でおよそ3分の1の生徒が、現在夢や希望を持っていないことがわかる。

・「人が困っている時は、進んで助けますか」の問いの肯定的な回答は77.0%で、全国平均の88.1%より11.1ポイント下回っている。自分自身が確立していない中で、他者を思う気持ちを育てている段階にあると言える。一方で、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いの肯定的回答は92.3%で高い水準にある。人助けをすることへの自信のなさや社会に認められたいという気持ちを合わせ持った状態にあるといえる。

・「学校に行くのは楽しいと思いますか」(71.2%)、「友達関係に満足していますか」(75.0%)の肯定的回答の結果からおよそ30%の生徒が学校生活に、25%の生徒が人間関係の満足度に課題があるといえる。

・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問いの肯定的な回答は48.1%で全国平均(55.0%)と比べて6.9ポイント下回っている。半数以上が家庭での学習を主体性のもととなる計画的取り組みができていないことがわかる。

・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、一日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の問いに1時間より少ない、まったくしないと回答した割合が合わせて53.8%とあり、半数を超えている。休みの日の自主学習の態度を養うことが課題である。

・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」(28.9%)「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか」(46.1%)で肯定的回答がいずれも半数を下回っており、地域とのつながりが希薄になっていることが読み取れる。

・「1,2年生の時に受けた授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しました」の問いの肯定的な回答は、67.3%で全国平均より5.2ポイント上回っている。

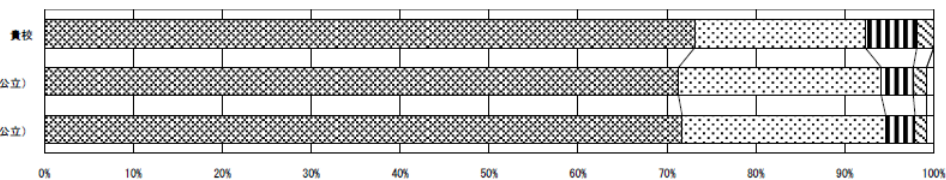
・「1,2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」(75.0% 対全国比-4.2ポイント)、「1,2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行いましたか」(50.0% 対全国比-19.1ポイント)、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」(69.2% 対全国比-10.5ポイント)、「授業で学んだことをほかの学習に生かしていますか」(55.8% 対全国比-4.1ポイント)、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」(61.5% 対全国比-11.1ポイント)の結果からは、総合的な学習の時間等での問題解決学習の体験が乏しいこと、各教科で学んだことを生かして自分の考えをまとめたり、他の学習で生かすこと、他者との交流で考えを広めたり深めることに課題があることがわかる。課題や問題に対し、教科等で得た知識を日常生活に結び付けて考えを深め、解決方法を考えら

れる思考力を伸ばすことが望まれる。一方で、「あなたの学級では、学級生活をより良くするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」の問いの肯定的な回答が76.9%で国平均と同水準であり、級友との話し合いを大切にしていることが分かる。

特に成果が見られたアンケート項目（肯定的回答の割合が90%を超えるものや全国平均と比べて大きく上回るもの）

- ・「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」90.4%
- ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」94.2%
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」92.3%

質問番号	質問事項										
(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	73.1	19.2	5.8	1.9						0.0	0.0
大阪府(公立)	71.3	22.8	3.6	1.5						0.0	0.8
全国(公立)	71.7	22.9	3.3	1.3						0.0	0.8

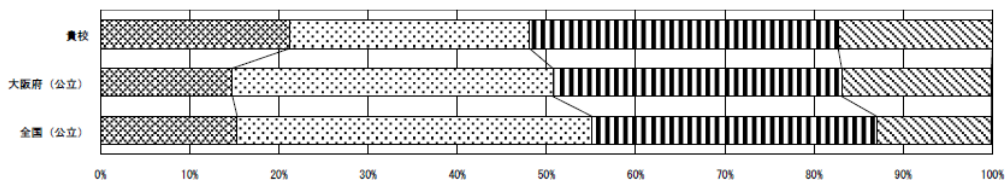


- ・「1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」67.3%（対国比 +5.2p）

特に課題が見られたアンケート項目（肯定的回答が50%を下回るものや全国平均と比べて大きく下回るもの）

- ・「人が困っている時は、進んで助けますか」77%（対国比 -11p）
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけない事だと思いますか」86.6%（対国比 -8.9p）
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」71.2%（対国比 -10.6p）
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」67.3%（対国比 -10.3p）
- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」48.1%（対国比 -6.9p）

質問番号	質問事項										
(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	21.2	26.9	34.6	17.3						0.0	0.0
大阪府(公立)	14.8	35.9	32.4	16.8						0.0	0.1
全国(公立)	15.3	39.7	31.9	12.9						0.0	0.1



- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」28.9%（対国比 -9.1p）
- ・「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか」46.1%（対国比 -16.8p）
- ・「1, 2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」42.3%（対国比 -18.8p）

学校が重点的に取り組んでいくこと

【基本的な生活習慣の確立】

○朝食の摂取、早寝早起きなどの基本的な生活習慣と身につけさせることができるよう家庭や地域と協力して教育活動を行います。

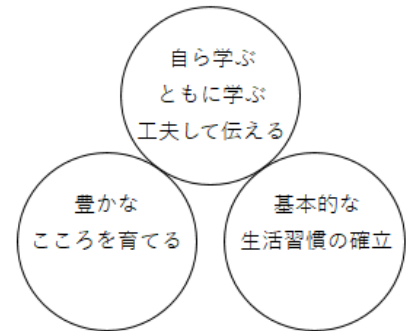
【豊かな心の育成】

○学校が楽しい、自分の良さを感じることができる、友達との関係に満足することができるなど学校生活を前向きに楽しく過ごし、自分自身に自信が持てるよう学校行事での体験活動や教科指導での協同的な学びを通じて豊かな心を育てます。

【よりよく生きるための資質能力の育成】

○個別最適な学びと協同的な学びを一体的にすすめられるよう自主学習や学習計画書の課題を設定します。また、授業づくりにおいては、ペアや班で対話し、考えを広める、深める、工夫して発表する活動を行います。

○総合的な学習の時間を要にして、問題や課題を解決するために、各教科等で学んだことを日常生活の経験と結び付け、生かして学習活動をすすめる思考力・表現力を養います。



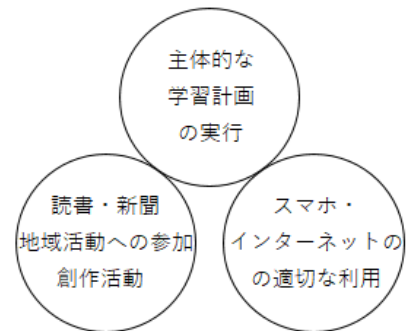
生徒の皆さんに取り組んでほしいこと

【学びの自律】

○自らの学びを主体的にとらえて、どのようにして自分自身の学力をたかめていくことができるかを考える。その中で、自分の課題や長所を明らかにし、どのように伸ばすか方法を考え、自分に適う方法を選択し、実践する。主体性をもって実感を大切に、修正しながら学習活動をすすめましょう。

○家や図書館にある本や新聞を読む。公民館や地域の催しに参加する。自分の興味関心に合わせて調べ学習を行い、学びを深める。書や絵画など創作活動に取り組んだりしましょう。

○スマホやインターネットを学習や娯楽に利用する際に、生活を崩さないように気を付ける。動画視聴やSNSに没頭することがないようにしましょう。



保護者の皆様に協力してほしいこと

【学びの環境づくり】

○お子様が興味のある本を図書館で本を借りる、買うなどして読書する環境を整える。

○新聞、テレビやインターネットでのニュースを食卓など家族の集う場で、話題にして起きている事象の背景について保護者からお子様へ伝え、問題となっていること、解決する方法、感じることなどを話合うようにします。

○学習できる机や部屋を整え、学習中には静かな空間を作ります。

○スマホやインターネット、ゲームの使用についてご家庭でお子様とよく話し合ったうえで、使用時間や方法など家庭内でのルールを決められるようにします。(長時間や夜間の使用は、体調を崩したり、学力低下の原因となります。)

